

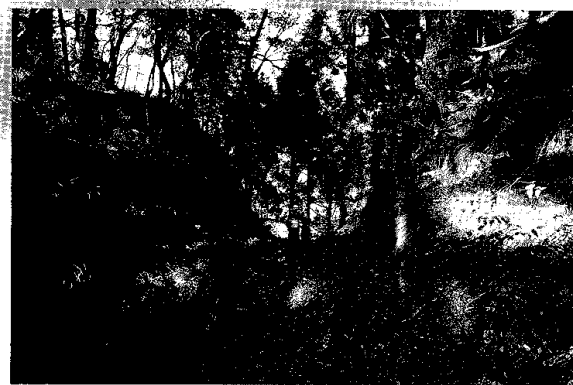
# 近江城郭風雲録

近江には「城」がたくさんある。滋賀県中世城跡分布調査では、なんと1300を数える城館跡を確認している。単純に県内26市町でわり算すれば、ひとつのまちに50城!! えいっ、そんなにたくさん、いったいどこにあるの?

実は、前号で紹介した彦根城のような「本格的な城」は、織田信長が造った安土城以降の近世城郭の姿。1300の城館跡のほとんどは、天守はもたない石垣さえもない「土造りの砦」なのだ。

なうんだ、なんて言っただけじゃない。北近江にはその約3分の1、400の城郭があり、後に時代のヒーローとなる武将や名も無き兵士たちが、命をかけた、追った舞台のひとつとなったのだ。

今号は、そんな中世城郭を訪ね、そこに渦巻いた風雲の記を綴ってみたい。



▲中世の城郭は土づくり。通路は大堀切で遮断された(鎌刈城)

## 北近江の城跡基礎知識

太田浩司 長浜城歴史博物館学芸員

### 中世城郭とは何か

滋賀県教育委員会は昭和57年から、9カ年をかけて中世城郭の調査を行ったが、近江国には実に1300を超える城郭が存在すると

いう。伊香・浅井・坂田の旧3郡では、400の城がリストアップされている。これらの城の大半は、空堀と土塁、曲輪からなる中世城郭で、今は残らない建造物は板張りの板葺き、近世城郭のような漆喰や瓦は使用されて

いかなかった。天守閣の机に上る櫓にしても、現在の盆踊り用の井楼櫓程度であった。その築城時期は、中世でも最末期の戦国時代が多い。

城といえは彦根城や膳所城のような、巨大な水堀が存在し、石垣と白壁、瓦葺きの何層もの天守閣や、広大な御殿が存在する城を想起するが、これは江戸時代の大名の居城、近世城郭の姿であり、城Ⅱ近世城郭という連想は、江戸時代以来の日本人の錯覚と言えよう。

ここでは、北近江周辺の村中や山上にひっそりと存在する中世城郭について、その立地や構造による分類を考え、実際見ることのできる遺構の種類について紹介してみたい。ところで、中世城郭は2つに大別できる。1つは、現在は住宅地や畑畑と同居している「平地城館」、もう1つは、岡や山の上に構築された「山城」である。まず、前者から説明しよう。

先ず「居城」で、北近江の場合は、戦国大名であった京極氏の上平寺城、浅井氏の小谷城がその典型である。南近江、特に甲賀には岡の上に築かれた村落領主の居城があるが、北近江では村落領主が岡の上に居城を構築す

### 平地城館

先の滋賀県教育委員会の調査で、合併前の長浜市の城館は69城。その内7つが山城で、他はすべて平地城館である。このように平野部では、山城より平地城館がはるかに多いのが特徴である。この城館は、中世各村で生活していた村落領主(土豪・地侍・小領主などと呼ばれる)の館跡であった。一般に城郭は複数の曲輪の連続から成り立っているが、平地城館の場合は1つの曲輪(単郭)しかなく、それが四角い形をした単郭方形のものが多数を占める。先年、北近江で平地城館として初めて国指定史跡となった下坂氏館は、このタイプの館である。今年7月26日に国指定史跡に指定された三田村氏館は、単郭を基本とするものの、北にもう一郭(曲輪)存在することが明らかで、少し複雑な構造をしていたようだ。

### 山城の三形態

平地城館に対して、岡や山の上に築かれた

のが山城。余呉町の場合、47の城郭がポイントされているが、旧長浜市と反対で平地城館は2つしかなく、残りはすべて山城である。

山城は、機能によって3つに分類できる。まず「居城」で、北近江の場合は、戦国大名であった京極氏の

上平寺城、浅井氏の小谷城がその典型である。南近江、特に甲賀には岡の上に築かれた村落領主の居城があるが、北近江では村落領主が岡の上に居城を構築す

ることはなかった。

2つ目は、「境目の城」である。大名たちが領国防衛のために構築したもので、城主が決まっている居城に対し、境目の城主は交代で派遣された。戦国大名の浅井氏は、越前や美濃の勢力と戦うことは少なく、主に南の六角氏と敵対していたので、その境界にあたる旧米原町の南部から彦根市北部にかけて境目の城が多い。鎌刈城、太尾山城、それに佐和山城をあげることができる。これらの城は、浅井氏の境目の城であったが、たびたび六角氏によって占拠されている。佐和山城については、石田三成が天正19年(1591)に城主として入ると、その居城としての色彩を強めることになる。また、信長の侵入に当たって改造されたと推定される上平寺城(刈安尾城)や長比城(野瀬山城)、玉城山城(関ヶ原町)も、浅井氏領国の東を押さえた境目の城である。

3つ目は「陣城」である。これは、いわゆる砦(中世文書では「取出」と書かれる場合が多い)で、周辺で合戦があり、その戦闘用の城として構築されたものである。長期間の防衛に使用された境目の城よりも短期間しか使用されなかった。賤ヶ岳城塞群はその典型であるが、信長が使用した虎御前山城もこの範疇に入ることが出来る。横山城は、当初は領国防衛の為に造られた境目の城であったが、秀吉が入城することによって浅井氏攻撃のための陣城に機能が変化している。



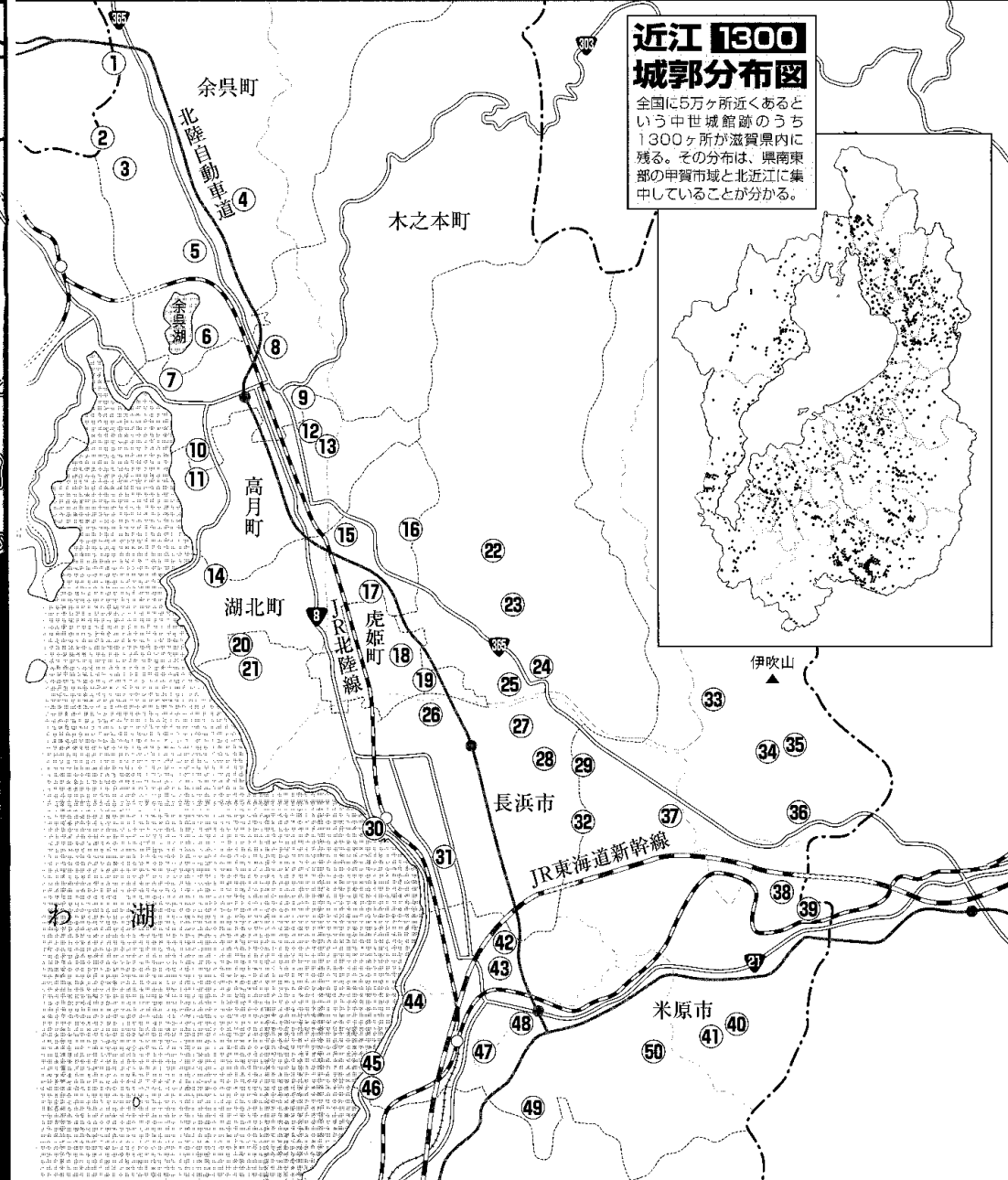
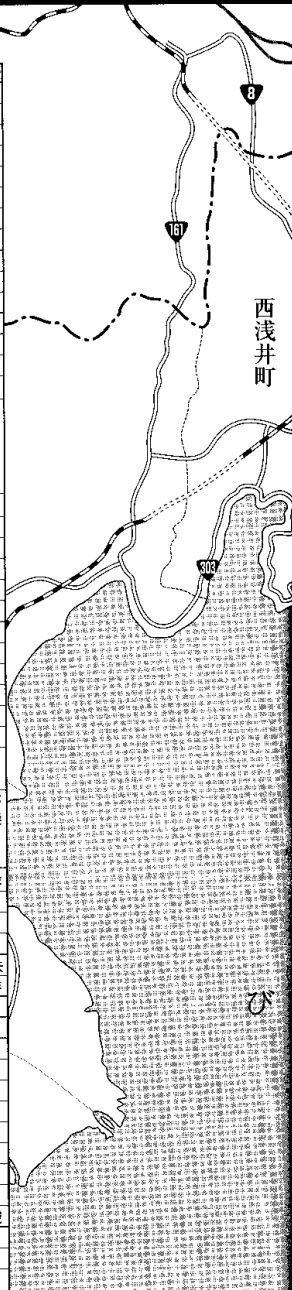
▲小谷山遠望。この尾根に沿って城が築かれた

# 中世近江城郭地図

近江には1300にのぼる城郭があり、そのうちの400が北近江に認められる。本誌で紹介したように、堀や曲輪などがしっかり残っているものから、記録にとどまるのみで現在は跡形もないものまで、その現状はさまざま。ここには、そのおもなものを紹介しよう。

## 北近江のおもな城郭50

No.	城郭名	所在地	プロフィール
①	玄蕃尾城(内中尾山城)	余呉町柳ヶ瀬、敦賀市刀根	賤ヶ岳合戦時、柴田軍本陣。櫓台(天守)あり
②	行市山砦	余呉町池原	賤ヶ岳合戦時、佐久間盛政布陣
③	別所山砦	余呉町池原	賤ヶ岳合戦時、柴田方陣城
④	東野山城(左称山砦)	余呉町東野	賤ヶ岳合戦時、堀秀政布陣
⑤	堂木山砦	余呉町中之郷、東野	賤ヶ岳合戦時、羽柴方陣城
⑥	大岩山砦	余呉町下余呉、坂口	賤ヶ岳合戦時、中川清秀布陣
⑦	賤ヶ岳城	木之本町川並、大音	賤ヶ岳合戦時、森山修理等布陣
⑧	田上山城(木之本城)	木之本町黒田(穴師)	賤ヶ岳合戦の羽柴方陣城
⑨	田部山城	木之本町田部	元龜年間に朝倉氏築城
⑩	赤尾城	木之本町赤尾	真宗西徳寺の西隣
⑪	磯野山城	高月町磯野	磯野氏詰城。天文年間廃城
⑫	井口城	高月町井口	井口氏居館。現在小学校
⑬	雨森城	高月町雨森	浅井氏配下雨森清貞居館
⑭	山本山城(阿閉山城)	湖北町山本	戦国期には阿閉・浅見氏が拠る
⑮	丁野城	湖北町丁野	浅井家臣中島宗左衛門屋敷
⑯	小谷城(大塚・郡上・焼尾等の諸城砦を含む)	湖北町伊部、郡上、美濃山、丁野、下山田、上山田(長浜市須賀谷町)	浅井氏3代の居城。京極氏の根本被官であった亮政により築かれ、久政、長政により整備された。姉川合戦後の天正元年、織田信長の攻撃により落城。後、羽柴秀吉が入城するも天正3年には長浜築城に伴い廃城。多くの遺構が良好に残存
⑰	虎御前山城	虎姫町中野(湖北町河毛)	信長による小谷城攻撃の前線基地
⑱	三川城	虎姫町三川	田中筑後守吉政の砦という伝承地
⑲	宮部城	虎姫町宮部	豊臣秀吉家臣で鳥取城主となった宮部兼潤の屋敷
⑳	安養寺城	長浜市安養寺町	安養寺河内守屋敷
㉑	益田城	長浜市益田町	江北10ヶ寺のひとつ。真宗寺地。増田長盛出身地と伝承
㉒	小室陣屋(小室城)	長浜市小室町	小室藩11,000石余の陣屋
㉓	大依山城	長浜市大依町	浅井家臣遠藤善左衛門直経が守備
㉔	野村城	長浜市野村町	浅井家臣野村肥後守・向白誓守屋敷。土塁・堀が残存
㉕	三田村氏館	長浜市三田町	三田村氏屋敷。現況、伝正寺・泉流寺地。土塁・堀あり
㉖	国友城	長浜市国友町	国友白誓守・同兵庫介屋敷
㉗	上坂城(上坂氏館)	長浜市西上坂町	京極・浅井家臣上坂氏屋敷
㉘	堀部城	長浜市堀部町	六角氏一族の堀部氏屋敷。土塁残存
㉙	横山城	長浜市石町、米原市村屋田、黒部、朝日	浅井氏が築城。姉川合戦後、小谷城攻めの拠点として木下秀吉入城
㉚	長浜城(今浜城)	長浜市公園町	南北朝に京極氏が築き、今浜氏・上坂氏らが守備。天正3年に羽柴秀吉が再築城して以降、柴田勝賢・山内一豊・内藤信成と城主が変遷し、元和元年内藤信正の高槻移封に伴い廃城
㉛	下坂氏館	長浜市下坂中町	京極・浅井家臣で下坂庄地領の下坂氏屋敷。堀・土塁残存
㉜	鳥羽上城	長浜市鳥羽上町、米原市菅江	荒尾三郎左衛門尉屋敷
㉝	太平寺城(霧方城)	米原市太平寺	太平寺を京極氏が山城化
㉞	弥高百坊遺跡(刈安尾城Ⅰ)	米原市弥高	弥高寺を京極氏が山城化。土塁が残存
㉟	上平等城(刈安尾城Ⅱ)	米原市上平等	京極氏居城。永正年間本格的に築城。大永3年に内紛より焼失
㊱	米原城(大泉城)	米原市大清水	多賀左近将監正信高城と伝わる。土塁・堀切等残存
㊲	大原氏館(大原城)	米原市本市場	佐々木大原氏の屋敷。土塁等残存
㊳	須川城	米原市須川	浅井家臣遠藤善左衛門直経。土塁・堀等残存
㊴	野瀬山城(長比城)	米原市長久寺	浅井氏の江濃国境防衛の一拠点
㊵	八講師城	米原市梓河内	礎石、虎口、石段等残存
㊶	河内城(宿禰城)	米原市梓河内	京極氏の詰城か? 曲輪等が残存
㊷	一の城	米原市瀬戸	堀切、竪堀残存。今井氏支城か?
㊸	新庄城(賀浦城)	米原市新庄	小学「殿城」。京極・浅井家臣今井氏屋敷
㊹	朝妻城	米原市朝妻乳母	新任直頼居城
㊺	磯城	米原市磯	詳細不明。磯崎金七居城か?
㊻	磯山城(虎ヶ城)	米原市磯	浅井氏の対六角氏前線基地
㊼	大尾山城	米原市米原、西門寺	江北江原争の城。浅井長政の頃は中島直頼居城
㊽	地頭山城	米原市三吉、寺倉	鎌刃城の支城。浅井長政の頃は今井氏が守備
㊾	鎌刃城	米原市番場	戦国期には堀氏居城。竪堀群や石礎等残存
㊿	枝折城(土肥城)	米原市枝折	土肥氏一族屋敷。堀切・土塁残存



\*「波瀾の城(滋賀県中世城郭分布図)」(滋賀県教育委員会)を元に作成しました。